

## 【森林管理署長等が語る！】

吾妻森林管理署 内海 和徳

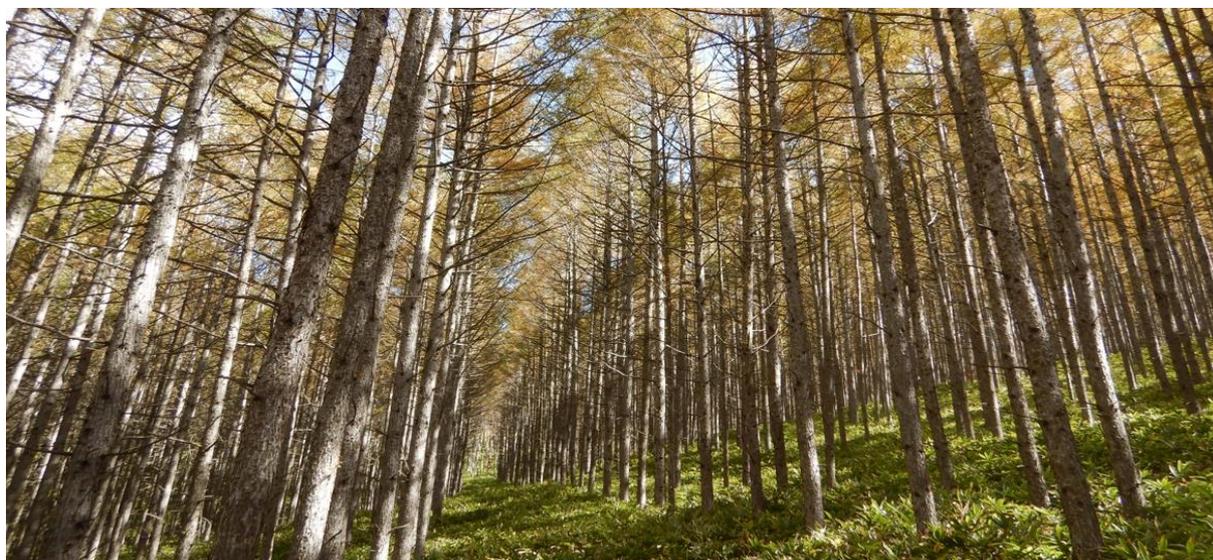
### 1 はじめに

吾妻森林管理署 署長の内海です。今は1月ですので赴任して1年10か月が過ぎました。この「森林管理署長等が語る！」での吾妻森林管理署の回は私で4巡目です。歴代の署長の方たちは、管内の見どころ、様々な取組について語って頂きました。では、私は何を語ろうかと考えたとき、関東森林管理局管内で唯一のものが管内にあるではないかと思に至りました。

「カラマツ採種園」です。その名のとおりカラマツの種子をとるための施設です。実はこの採種園、過去に1度閉鎖しています。近年のカラマツ需要の増大に応えるために復活しました。

### 2 カラマツについて

ところで、皆さん。カラマツという木はどんな木かご存じでしょうか。マツ科カラマツ属の落葉針葉樹で日本の固有種です。日本の針葉樹の中では落葉する唯一のもので「唐松」ではなく「落葉松」と書くこともあります。四季毎に違う景色を見せてくれますが、私としては秋から冬にかけての景色が好きです。運がよければ、黄金色のカラマツの葉がサラサラと舞っている景色を見ることができます。また、カラマツは「からまつの林を過ぎて、からまつをしみじみと見き。からまつはさびしかりけり。たびゆくはさびしかりけり。」と詩人 北原白秋が詠んでいるように旅情を感じさせる木でもあります。



吾妻森林管理署管内のカラマツ人工林

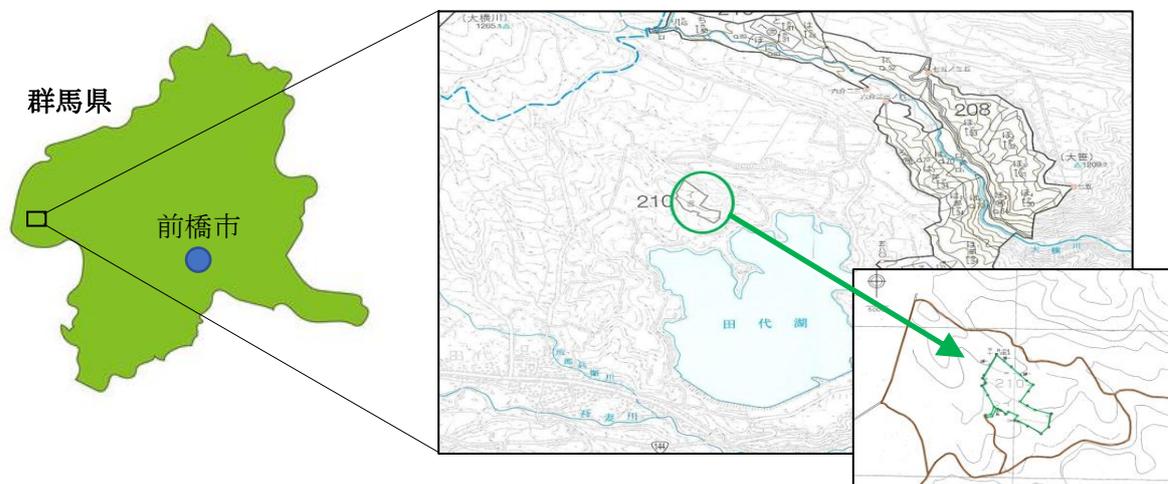
カラマツの自然分布は、宮城県の蔵王を北限として、静岡県までが南限となっています。寒さに強く成長が早いので、戦後の拡大造林の中で主に土木資材用として大規模に造林されました。造林地のトップ3は、北海道（40万ha）、長野県（24万ha）、岩手県（12万ha）で、群馬県は4番目（4万3千haのうち23%が当署のカラマツ）です。カラマツは植えてから30年ほどで伐採し木材として利用するのですが、若い時期はねじれる（旋回木理）という特性があるほか、腐りにくい、曲げに強いといった特性があり、主に杭木、枕木、電柱などの土木資材として利用されて

きました。しかしながら日本の産業構造が大きく変わり、従来のカラマツ材需要が減少する中、加工技術の進歩とともに新たな需要が生まれてきました。

現在、カラマツ材は合板の表板と裏板に使われています。カラマツ材を使うことでねじれ・曲げに強い合板ができます。集成材のラミナ（板）としての利用も増えています。また、曲げに強いのでパレットや梱包材にも使われています。さらに、高齢のカラマツはねじれがおさまるので建築用材として利用されています。特にスギ、ヒノキよりも曲げに強いので梁・桁での利用に適しています。このように近年需要が増加しているカラマツですが、一方で苗木が足りないという状況にあります。原因は種子の不足です。カラマツの種子を増やしていかなければならないということで、我が署の「カラマツ採種園」の出番となるわけです。

### 3 採種園の取組

当署の「カラマツ採種園」は、群馬県嬭恋村の田代湖に近い国有林内に位置しており、2.99haに約350本のカラマツ採種木が現存しています。昭和36年に拡大造林に伴う苗木需要の増加に対応するために採種園が造成され、平成12年に一旦廃止されました。前段でお話ししたとおり、カラマツ需要の増加に伴い群馬県内での種子供給の見込みが立たないといった状況の中、平成27年採種園が再設定されることとなりました。設定されたと言っても15年間未整備の状態であり、知見にも乏しいということで、同年3月に吾妻森林管理署、群馬県林業試験場、森林総合研究所林木育種センターの3者で採種園の活用に関する協定を結び再出発することになりました。



採種園（緑で囲まれたエリア）



採種園上空

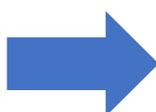


採種園内

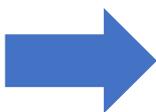
これまで除伐、受光伐、管理道の修繕、表示板等の設置、剥皮、豊凶調査等を行い、一部、球果の販売も行っています。年度毎の具体的な取組は以下のとおりです。

年 度	取 組 内 容
平成 27 年度	除伐、枯枝の枝打ち、管理道の修繕、採種園看板の設置
平成 28 年度	受光伐、管理道新設、系統表示板の設置
平成 29 年度	断幹、個体番号標示板の設置、豊凶調査
平成 30 年度	断幹、豊凶調査、球果採取、販売
令和元年度	剥皮、土壌調査、豊凶調査
令和 2 年度	剥皮、除伐、豊凶調査
令和 3 年度	剥皮、受光伐、管理道新設、豊凶調査、球果採取、販売
令和 4 年度	剥皮、豊凶調査、管理道修繕、枯損木処理
令和 5 年度	剥皮、受光伐、豊凶調査

**除伐**（侵入した広葉樹等の伐採、笹刈等）、**枯れ枝の除去**、**管理道の修繕**

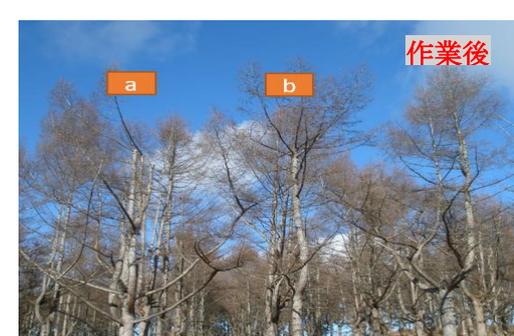
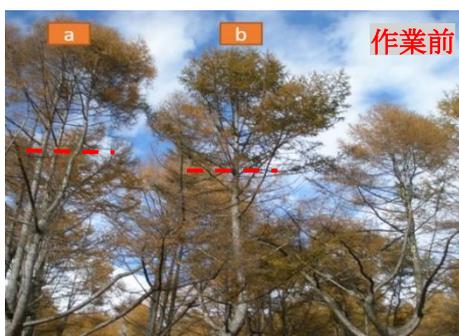


**受光伐**（側枝に陽光が当たるように一部のカラマツを間引く（伐採）作業。間引くことで、残ったカラマツの受光量が増え着果が促進されます。）



整備前

**断幹**（幹を途中から切ることで、横に枝が張れるように誘導します。結果、受光量が増えます。）



**剥皮**（一部の樹皮を除去することで樹木にストレスを与え着果を促します。）



**豊凶調査**（双眼鏡で着果状況を確認します。球状のものがカラマツの球果です。）



#### 4 さいごに

これまでカラマツ採種園の整備を9年間にわたり行ってきましたが、種子の販売実績は平成30年の15.5kgと令和3年の8.5kgのみです（重量は球果の重さ）。カラマツは結実の豊凶差が大きく、間断年数が長いことから、これまでの取組では、華々しい成果は得られていません。安定供給に資するとは言い難い状況です。しかしながら、いろいろな知見を積み上げながら継続して取り組んでいくことが大切であると考えています。これからもカラマツ種子の安定供給に資するべく関係機関と連携し採種園の整備等に取り組んでいきたいと思っています。